

# 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨調査報告

## ～収集支援 名古屋市編～

9月に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」において多大な被害を受けた常総市に対して、横浜市と名古屋市から災害復旧支援隊が派遣され、災害廃棄物の収集支援が行われました。横浜市の報告に引き続き、名古屋市による収集支援の内容について、現地に赴いた名古屋市環境局事業部作業課の笠本係長、加藤様、大西様、施設部施設課の高木係長にお話を伺うことができました。現地の様子など横浜市編と重なる点も多く、名古屋市編では、お伺いした中から特徴的と思われる点についてご報告します。



(左から) 加藤さん、高木係長、笠本係長、大西さん

## 1 名古屋市における収集支援の概要

名古屋市からの収集支援は、2期に分かれて実施。一次隊の支援期間は、9月28日(月)から10月4日(日)の7日間、二次隊の支援期間は、10月5日(月)から10月11日(日)の7日間で実施されました。常総市としては、同時に名古屋市と横浜市の支援を受けたことになります。

### 1.1 支援の規模(人的支援、機材等)

- 一次隊は21人。清掃運転士5人、技士11人、管理・整備5人の構成。二次隊は、20人。清掃運転士5人、技士11人、管理・整備4人の構成にて支援が行われた。
- 派遣車両は、圧縮板式の4トンパッカー車が3台、4トンダンプが2台、連絡車として乗用車が2台。
- 1台あたり3人乗車の対応とした。名古屋市では、平時より3人乗車の体制により収集作業を実施している。

### 1.2 支援の期間

- 9月24日および25日に正式に支援依頼があった。
- 名古屋市から常総市までおよそ400kmある。一次隊の派遣では、期間初日の9月28日は移動・打合せのみで、9月29日からの実働となった。
- 二次隊は10月5日午前に電車で移動し、午後から収集作業を実施。車両等は、一次隊のもの

を引き継いで、そのまま使用した。(業務の引き継ぎ要員は、10月4日に移動。)

- 支援を必要とする期間が分からなかったため、とりあえず1週間ということで、一次隊を派遣した。二次隊が必要であるかどうかについても、現地で判断するという状況であった。

### 1.3 支援・派遣に向けた準備

- 準備期間が短かったが、過去に行った支援の経験を基に準備を行った。物品については、通常の作業服、安全靴等に加えて、普段は事業所に備えていて、現場で必要になりそうなもの(予備タイヤ、予備幌、ゴムバンド等)を持っていった。

## 2 現地における収集支援の状況

一次隊と二次隊では支援期間が1週間ずれているだけですが、収集作業の内容に変化が見られています。作業の進捗により、状況に応じた支援内容の検討が必要になることが分かります。

### 2.1 一次隊の初期作業

- 作業初日に、常総市から地図等により作業範囲や災害廃棄物のある場所の情報をいただき、その中の一か所を案内してもらって、作業の仕方などの指示を受けた。
- ごみがあるという情報のあった場所の収集作業そのものは順調に進んだ。しかし、その他の場所について情報が不足していたため、情報収集しながら収集範囲を拡げていった。



(写真は名古屋市から提供)

## 2.2 一次隊と二次隊の作業の様子

- 一次隊と二次隊における特徴的な作業の様子を比較すると、

	一次隊	二次隊
実作業期間	・ 9/29 (月) ~ 10/4 (日)	・ 10/5 (月) ~ 10/11 (日)
経過時間 (発災 9/10)	・ 発災後 19 日目 ~ 24 日目	・ 発災後 25 日目 ~ 31 日目
支援先の分別 に合わせた収集 作業	・ 分別、作業の仕方など常総市の担当者 と相談しながら一つずつ進めていく。	・ 一次隊からの引き継ぎに加え、既に仮 置場に搬入、分別されている災害廃棄物 を例としてみる事ができたので分別 の基準をイメージしやすい。
収集する災害 廃棄物の有無 の情報ソース	<u>既に排出されていた災害廃棄物</u> ・ 事前に常総市が把握していたごみが置 かれた場所のごみ。(平時のごみ集積場 所以外を含む) ・ 支援隊自らの情報収集により把握した 場所のごみ。	左記に加え、 <u>新たに出てくる災害廃棄物</u> ・ 住民からの収集申込み ・ ボランティアからの情報(ボランティ アが把握したごみの有無情報、ボランテ ィアの作業予定情報)
作業の特徴	・ 主にごみの山から目的の種類のごみを 抜き取る作業。	左記に加え、 ・ 住民からの申し込みを受けて、個々に 回収に伺う作業。 ・ 生活ごみのごみ集積場所に通常の分別 で排出され始めて、生活ごみと災害廃棄 物を区別しながらの作業。



(写真は名古屋市より提供)

## 2.3 ボランティアとの協力（二次隊）

- 活動を行っているボランティアは、道路や災害廃棄物が置いてある場所の情報を把握していることもあり、収集エリアを拡げていく際に、ボランティアから情報をもらって、管理担当が確認を行うといった方法もとることができた。
- ボランティアとの情報のやり取りに関しては、ボランティアの代表の方と直接のやり取りを行った。
- 収集作業員が被災家屋の近くまで行って収集するよりも、車両に積み込み易い場所までボランティアに出してもらう方が作業の効率がよいこともあり、「この辺りに出してほしい」という要望に対応していただいたり、ボランティアの人数を調整していただいたり、作業の連携を取ることができた。
- 共同作業に慣れてくると、ボランティア側から「この辺に出しておいた」という情報の提供も自主的に行っていただけになった。

## 3 災害廃棄物の収集支援を通して

- 支援自治体として収集作業の支援は行ってきたが、被災自治体が行わなければならない焼却や埋め立てといった災害廃棄物の『処理』は難しいものだと感じた。仮置場に大量の災害廃棄物が搬入され、処理がなかなか進まない様子を見ると、他市との連携も大事だと感じた。



（写真は名古屋市より提供）

- ごみの種類による分別の基準だけでなく、収集を人力で行うごみと重機が必要となるごみというように作業方法による分別の基準なども必要であると思う。

- いかにも早く正しい情報を把握するかということが大切である。今回の支援では、全体像などの情報を十分に把握しきれないという課題があったように思う。どこにどれだけごみがあるのか分からないと、支援に行っても動きようがないと感じた。
- ボランティアとの協力は必要であると感じた。現場作業を進める中で、ボランティアと積極的に接触し、直接情報を聞いたことはとてもよかった。
- 今後、支援を行う場合のアドバイスとして、
  - ①災害の支援は準備期間が短いので、準備を速やかに行う必要がある。
  - ②タイヤのパンクが想定されるため、予備タイヤが必要である。
  - ③必須アイテムはこれ。→ → → → → → → → 「くまで」 → →  
災害廃棄物は、土の上にも置かれる。収集後には、土の中から破片をとるなど、きれいにする事ができる。



参考：ハツ矢工業株式会社HP

---

今回のインタビューでは、一次隊、二次隊のそれぞれの方にお話を伺うことができ、時間経過による作業内容の違いなどを詳細にお伺いすることができました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

レポート特派員 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 夏目吉行